



## 2022年3月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
27	28	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	

住所: 東京都中央区日本橋大伝馬町13-8  
 メディカルプライム日本橋小伝馬町3階  
 TEL:03-3639-3110 FAX:03-3639-3112

## 2022年4月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

ご卒業  
おめでとう  
ございます

ホームページ  
院長ブログ公開中

「今月の言葉」  
 心の窓はいつでもできるだけ数をたくさんに、  
 そうしてできるだけ広く開けておきたいものだ  
 ~寺田寅彦~



休診日	午後休診	18時最終受付
一般外来	9:30-12:00	16:00-19:00
発熱外来	12:00-13:00	15:30-16:00

### <お知らせ>

新型コロナワクチン追加接種行なっております。  
 中央区の新型コロナワクチン特設サイト、  
 またはTEL0120-421-062よりお申し込みください。

### 二重窓を設置して考えたこと

私はいま都内のマンションで家族4人で暮らしています。長男が生まれて、当時住んでいた賃貸の公団住宅からこのマンションへ越してきて早くも17年になります。

とても気に入っている我が家ですが、残念ながら少々気になる点もありました。南と西に面しているため夏は西日がきつく、かなりの暑さ。また、冬場は西と北に面している部屋は寒く窓の結露もひどいのです。冬になると窓のサッシは結露とカビで悲惨な状況でしたが、拭いてもきりがなく、なかば諦めておりました。

話は変わりますが、学生時代は札幌に住んでおりました。北海道の冬は厳寒ですが、室内はとても暖かいことで有名です。私が住んでいたところは学生用のワンルームマンションでしたが、部屋の2か所の窓はいずれも二重窓、玄関も二重扉だったためか、ガスストーブひとつで十分でした。

うちも二重窓にしたらいいのではないかと数年前から考え始めて、昨年の秋に思い切って全部の窓を二重窓にしました。妻からは、そこまでする必要あるかと当初懸念の声もあがっていましたが、結果的には二重窓の施工は大正解だと思っています。何といっても室内の暖かさや結露がなくなったということが大きいのです。真冬の時期でも最低限の暖房で済みます。結露がないので汚れません。遮音効果も高いため、とても静かになりました。もともと静かな通りに面していますが、雨が降っても風が吹いても家の中はいつも静かです。施工代金は確かにかかりますが、今は補助金もありエコポイントなども付与されます。二重窓の効果から考えるとそれほど高額ではありません。

皆様の家の窓枠はアルミサッシでできている方は多いのではないかと思います。アルミサッシは安価で耐熱性・耐久性がよいのですが、熱伝導率がよいのです。熱伝導率とは熱の通りやすさのことで、アルミニウムの熱伝導率は、なんと木の2000倍もあるのです。要するに冬の寒さ・夏の暑さがアルミサッシを通して室内に入ってきてしまい、せつかくの暖房・冷房も外へ逃げてしまうこととなります。これはエコではありませんね。さらに外気と室内の温度差があるために結露が発生するのです。冷たい水を入れたコップに水滴がつくのと同じ原理です。飲食店でときどき見かけるのが二重構造になったピッチャーですが、これは空気の層が存在することによって断熱となり温度差が生じずに水滴ができなくなります。同じことが二重窓でも実現できます。

ところで我々日本人が建物について考えるとき、徒然草の「家づくりは夏をもって旨とすべし」という言葉を思い出す人は多いかと思えます。高温多湿の夏がある日本では夏に過ごしやすいように風通しのよい家を作るべきだという考えで、現代のコロナ禍においてもピッタリの考えだと思います。私も心のどこかで「マンションのような密閉された空間で過ごすのは体に悪く、少しぐらい風が入ってくるような風通しの良い家で過ごす方が体によい」と考えていたところがあります。しかしそれは現代でも通用する考えなのでしょうか？

東京大学の建築学科の准教授である前真之さんは、無断熱の住宅が室内の温度差やカビなどにより健康に害を及ぼすこと、無駄なエネルギーの消費を招いていることを指摘しています。冬になると温度差からヒートショックが原因で亡くなる人が後をたちません。室内が18℃以下では血圧が上昇することが知られています。また、冬には朝起きるとすぐに暖房つけ、夏は一日中冷房なしでは過ごせないような住宅が日本中、あふれるとそれこそ莫大なエネルギー消費になってしまいます。原子力発電所がほとんど稼働しておらず、石油などのエネルギーを輸入に頼らざるを得ない現状の日本では断熱性能が劣る建物を作り続けるのは将来へのエネルギー消費に繋がり、良いこととはいえません。

エネルギー問題はCO2排出とも関連し非常に難しい問題となっています。EUが自国のCO2排出を減らすためにロシアからの天然ガスの輸入に依存してしまい、結果的にEUがロシアへ強い態度へ出るができなくなっているとも言われており、今回のロシアのウクライナ侵攻へと関連している可能性も指摘されています。

「天災は忘れたころにやってくる」というのは寺田寅彦の残した有名な言葉です。寺田寅彦は東京帝国大学の教授をつとめた物理学者ですが、夏目漱石の弟子として多くの著書を残しています。寺田寅彦の弟子には人工雪の結晶を世界で初めて作成した中谷 宇吉郎や多くの物理学者がいますが、私の父も彼の著作に感銘を受けて物理学者をめざした一人です。

寺田の作品で「茶わんの湯」という有名なエッセイがあります。茶わんの湯を注意深く観察すると、その中には地球上で起こる天候・雲の流れ・水蒸気・光・風などを見つけることができると寺田寅彦の特有の柔らかい文章で書いているのです。日常生活に見られるありふれた現象から地球上に起こる現象を導き出して、それをエッセイとして作品に残した寺田寅彦に昔の人が憧れたのも無理はないと思いました。

二重窓施工という身近な生活の出来事ではありますが、結露のこと、家の断熱のこと、健康のこと、エネルギー問題、CO2排出、そしてエネルギー問題におけるEUとロシアの関係など、世界との密接なつながりを実感するのです。

日々混迷を増す世界情勢、戦場と化したウクライナでの悲惨な戦闘が一日も早く終結し、平和が訪れることを強く願っています。

